

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 高見 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、数学）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、数学）

教科に関する調査（国語、数学）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 生徒質問調査

生徒質問調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学）の結果

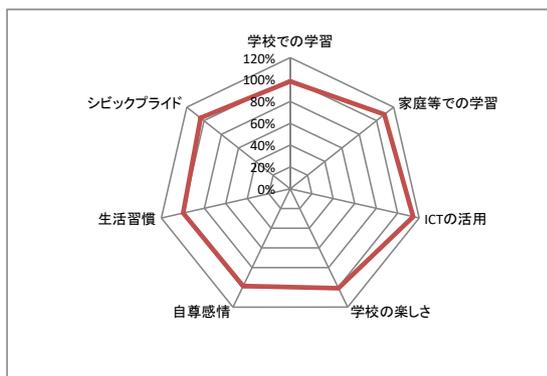
本年度の結果	国語		数学	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	57	7.8	49
全国	8.7	58	8.4	53

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全国平均を上回ることができており、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」の定着が見られている。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	正答率が低い傾向にある記述式の問題についても正答率が高く、無回答率も少ない。	上回っている
	努力が必要な問題	短歌に用いられている表現の技法や、読まれている情景の時間帯の違いを捉える問題。	

数学	全体的な傾向や特徴など	すべての領域にわたって全国平均を上回っている。特に「数と式」、「関数」の領域では十分な力が身に付いている。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	選択式、短答式、記述式のうち、どの問題形式についても全国平均よりも正答率が上回っている。	上回っている
	努力が必要な問題	事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見出す問い。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析
<p>「学校における授業以外の学習時間」が充実していること、「規則正しい生活習慣」が確立されていることは、例年の特徴であり、今年度の調査でも明らかになっている。</p> <p>また、地域の行事への参加や、地域に貢献したい、という考えが高いことも特徴の一つである。</p> <p>自尊感情に関する「自分にはよいところがある」という質問に肯定的な回答をした生徒の割合が全国平均に比べて下回っているものの、本調査の3年生が1年次、2年次に回答したものと比べると全国平均に近づいている。</p>

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・基礎的、基本的な学力は身に付いているが、問題の領域によって無回答率が高いものや、正答率が低いものがある。小テストの取組等を継続して行い、粘り強く課題に取り組む態度を育成する必要がある。

・自分の考えがうまく伝わるよう資料や文章、話の組み立てなどを工夫する生徒の割合が低く、授業の中で自分の考えをまとめたり、発表したりする機会を増やす必要がある。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・地域や社会をよくするために何をすべきか考えると回答した割合が高く、実際に地域の行事に参加する生徒の割合も全国平均と比較して高い。シビックプライドの醸成をめざした取組をより一層充実させていく。